

874
2

明治四年 辛未二月吉日

葬祭式 三冊 合卷

519



達 874
2

慶嶋藩葬祭式

一 前散齋二日

一 致齋一日 即祭當日

一 齋主以下着被座 被座ハ家ノ正院ヲ用ユシ

一 執事供被具 執事家ノ子弟子婦人ハ奴僕ヲ用シ

一 執事頒切帶

一 被主宣被詞

高天原尔神留坐湏神瀉岐神瀉美乃命以豆

皇御祖神伊邪那岐命筑紫日向乃橘乃小豆

乃阿波原尔御禊被比給布時尔生坐留被戸



51-1285



乃大神達諸乃枉事罪穢乎祓賜聞清未賜聞

止申須事乃由乎天都神國都神八百万乃神

等共尔天乃班馬乃耳振立天聞食止畏美畏

美毛白頭

一齋主以下以切幣禊身及禮物

一執事撤後具

一齋主以下退座

一以上祓儀

一齋主着神前座

一齋主開神扉

一齋主開宣祝詞

掛卷毛畏支我親某姓能家乃御祖神止稱辭

竟奉留歷世乃尊靈等乃宇豆乃御前尔裔孫

某名謹美敬比乞願申左久今年二月能御祀

仕止志天薦留禮物能幣帛表御心穩尔聞食

互今毛往前茅天津日嗣弥昌尔昌延四方乃

食國惡神乃惡事無久天乃益人我作止作留

物等波草乃片葉广天毛茂尤加尔成幸聞家

之富饒比天心安久令在某我身毛壯健尔親

族心足比天息緒長久嘔笑尔惠羅久計里美

久偉支御福哀授給比惠美給倍止宇自物頭

根突技臣申須

一 齋主一拜

一 伶人奏樂供禮畧儀

一 齋主以下四拜

一 齋主以下一拜

一 齋主以下四拜

一 齋主以下拍短手尊靈等

一 齋主以下一拜

一 伶人奏樂畧儀樂十三

一 舞人奏樂畧儀同斷

一 伶人奏樂 撤禮物畧儀樂十三

一 齋主閉神扉

一 齋主以下退座

一 以上祭儀

一 齋主以下着直饗食座畧儀直饗食十三下皆此三做

一 齋主以下拍短手

一 齋主以下三行酒盃

一 齋主以下拍後手 其數短手二同シ

一 以上直饗儀



一 齋主以下後散齋一日

右之通禮祭式可執行候其内禮物等ハ別紙
附録ニ出シ置候得共古ヨリ定法ナケレハ其家
ノ貧富有無ニ應シ且主人ノ心ニカセ何品ニテモ
供度物ハ勝手次第ニ供ヘシ尤祖先ノ祭ハ誠
敬ヲ第一ニシテ礼物ノ多少ヲ論スルハ可為未
儀候

一 右上等靈祭式

一等官以下衆中以上公族モ
是ニ同シ

一 靈祭春冬ノ仲月

右毎年二月十一月兩度ニ定メ二月ハ四日以

後十一月ハ中ノ卯ノ日以後並ニ其家々ノ吉

日ヲ選テ祭祀ヲナスヘシ

一 散齋三日

右散齋トハ祭日ノ前後ニ齋スルヲ荒忌ト云荒

忌ノ内ハ吊喪問病食肉判利聽樂觸穢六種
ノ禁忌ヲ慎ムヘシ然トモ我日用ノ業ヲ作ハ此限
ニ非ス

一 致齋一日

右致齋トハ祭ノ當日ノ齋ヲ真忌ト云真忌ノ
内ハ六種ノ忌ハ更ナリ万事ヲ忌慎ムヘシ

一 齋主

右齋主其家ノ主人タル者ノ職タルヘシ然服忌
故障モアラハ其親族又ハ祭祀ニ取馴シ者ニ託
シテ可也

一 被具

右齋屋ハ神棚靈舎齋所ナト皆同シ齋屋ハ
祖先ノ神位ヲ置所ナレハ殊ニカ事ヲ祀清允
諸意ヨリ云名ナリ

一 神位

右神位ハ祖先ノ靈魂ヲ寓スル物ニテ今ノ俗ニ

四位牌ト云是ナリ位牌ノ制モ古ノ神位ヨリ出テ

其流レ今ハ位牌ノ如ク成ナリ依テ神位ノ制ヲ

定ムルニハ劔太刀鏡笏石玉串其他ノ器物ニ

至ルニテ皆己カ好ノ任ニ用ユヘシ或ハ俗ノ位牌

ヲ白木造ニシ或ハ白木板ナトニ姓名ヲ並ヘ記
スモ亦可也

一 禮物

右禮物ハ神前ニ備ル手向物ヲ云其物尤ノ如シ

一 神酒 常ノ酒焼酎甘酒ノ類神ニ備ル物ハ都テ神酒ナリ
ニキノキハ酒ノコ

一 荒稻 俗ニ云糴米ナリ

一 和稻 俗云精米ナリ

一 鰭廣物 古ハ魚ノ大キナルヲ魚ノ品ニヨラスルテ鰭ノ

鰭狹物 是モ大魚ニ對シタル詞ニテ凡テ小魚ヲ鰭ノ

一 毛鹿物 者凡其他諸獸ノ類ヲ廣ク云詞ナルコト

一 毛柔物 雉子山鳥ノ類其他諸鳥凡チ毛ノ柔物ナリ

一 奥津海海藻 昆布海帶ノ類ノ如キ凡テ海ノ沖ニ生スル物ヲ云

一 邊津海海藻 海苔海苔ノ類ノ如キ凡テ海ノ干瀉ニ生ル物ヲ云

一 甘菜 蕪菁蔓葱ノ類ノ如キ凡テ味ヲ野菜

一 辛菜 大根野薤生薑芥子ノ類ノ如キ凡

一 四丁土器

一 端出之繩

右端出之繩ハ或ハ志見あしとも云

一 百田紙

右注連料

一 机

右机ハ八咫ヲ古制トス畧ハ常ノ机ニテモ可也高
低寸法ハ定法ナシ其家ノ廣狹ニ隨テ造ヘシ

右靈祭式附録

上中下等通儀



人死てハ即チ病床ヨリハ穢惡ノ物ト恙ク除ク
 薦褥等ト敷テ死者ト南首ト安臥セリト信ス
 後ハ男子ハハ頭也ト守刀ト置テ一洗米ト供
 夜ト火ト點テ一夏日ニ六香ト焚テ其氣ト拂
 一 名別ト居宅モあり死者ト遷シテ其所ト
 喪室ト云ルハクヤ儀ト喪室ハ後ト敬テ未葬
 一 一ノ名少ク殯ノ所ナリ古ハ人死タレハ葬所
 一 近シハ虎窟ト造テ喪室ト建テ生時ノ威儀ト
 一 新ク喪室ト入室ナリト決テ後ニ其死ト起テ葬
 一 事ト仰リトカク

一 死者の靈と靈位と遷し

葬主 其家の嗣子ト勤ト嗣子カ時ハ沐浴ト

淨衣ト着 遷シテ其儀ヲ 死者ノ改トシテ

茅礎ト設けて死者ノ姓名ト靈位ト墨書ト

其式左ノ如ク

年号月日生年

藤原朝臣常則靈位

長田真次郎年八十歳

年号月日生年

常貞靈位

藤原常則之三男

長田熊次郎年十六歳

年号月日生年

常子靈位

藤原常則之長女 年七歳

つく書畢て机の上へ靈位と並葬主二枚拜
て死者に向い夫人の靈と靈位を遷す心事と
涙を申し

其詞

謹言 白 左久奇 支御魂乎 此乃靈位 尔止坐 互彌
遠長 尔鎮坐 止申 頌

- 一 葬主一度拜
- 一 葬主手と二拍 是と平手
- 一 葬主座と退く
- 一 靈位と机を安し清間を迂す

標を遷る人として國の外より靈位と清
取て清間を迂し毎朝礼拜せしむるに靈
位の前へ机と置酒飯而茶干魚淨水菜
木標標推拾楮椿柳の類を外の不
とて松栗の葉をと用り古は草花等と供し板を
懸せ忌服を係る親族忌めしむる國を隔て朝夕
靈位と拜す

一 化者沐浴櫛髮

十二時過ぎて牧族の者有伏許しあり湯を
化者の手足を洗ひ湯帷子手巾を以て拭髮髪を
本結ふこと生肘のあり志が死時と忌程

柩と遺體一物送葬のりして奥座の内靜
がらふ也(昔古書)と云柩と要し是は米淨水と
併て柩の中と悲せし親賓の贈物あり柩よ
汚て供ふ別よ申し候ふるをと標し葬具と
檀香し幣物或は吊巻等の姓名と記
法事悉く並檢せしめよ

柩と表の間(遷居)
送葬の日定まりて面の刻し表の間に
の柩よは舊と新大葬とを柩と片しとよ
上は柩と遺體と

柩の前は机と置酒饌等と供ふ

葬に浄衣と志を執り柩に之を淨衣を
羽織袴とてよりやうのり葬にの心と

上酒酒をなれは枝付干魚昆布蹄菜當子椀
柩祀燈栗飯塩水の瓢と寸七巻と供ふ

燈は燭身と五栄と花瓶と挿て供

一 葬に柩前へ進て一たび揮

一 葬に役詞と宣

其詞

掛卷母畏伎何某乃御魂能御前尔白左文心哀

盡_レ種々_ノ療_ニ奉_テ加_テ得_ル堪_テ不_レ給_ル之_ハ終_ル
 身罷_レ給_ル比_レ奴_ハ是以_テ泣_キ悲_シ米_ノ杵_ノ毛<sub>更_ニ爾_ノ驗_{無_ク禮_{婆_ノ世}}
 乃_レ理_乃任_ル爾_ノ奧_ノ城_ノ爾_ノ藏_ノ奉_テ年<sub>登_ル須_ル此_ノ狀_乎平_ノ氣_久
 安<sub>氣_久聞<sub>食_長速_久遷<sub>里_{坐_{登_ル畏_{美_々美_毛申_須}}}
 葬<sub>主_{四_{度_拜}}
 葬<sub>主<sub>平<sub>と<sub>四<sub>拍_{ふ_{と_{短_{と_{い_ふ}}}}}
 葬<sub>主<sub>平_{と_{四_拍}}
 葬<sub>主_{一_{度_拜}}
 親<sub>族<sub>舍_ノ葬_ノ之<sub>者<sub>其<sub>拜<sub>二<sub>拍<sub>一_{度_{採_{て_{遷_{一_一}}}}}
 酒_{饗_{字_{と_{撤_{け_{供_{る_{時_{の_{あ_{ら_う}}}}}}}}}}}</sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub>

發行

一 串<sub>畢<sub>六<sub>極<sub>と<sub>繩<sub>わ<sub>く<sub>大_{奉_{一_{縛_{き_{緊_{く_{結_付}}}}}}}
 一 兼<sub>力<sub>徑<sub>と<sub>相<sub>首<sub>一<sub>後<sub>付<sub>留<sub>吏<sub>一<sub>諸_{白_{せ_{よ_{門_{燒_{と_{知_る}}}}}}}
 一 提<sub>灯<sub>等<sub>よ<sub>火<sub>と<sub>燈<sub>一<sub>所<sub>よ_{依_{て_{一_{兼_{炬_{と_{用_よ}}}}}}}
 一 諸<sub>役<sub>ハ<sub>半<sub>時<sub>前<sub>より<sub>白<sub>丁<sub>と_{志_{て_{行_{列_{と_{酒_發}}}}}}
 一 行<sub>待<sub>よ<sub>淨<sub>衣<sub>白<sub>丁<sub>と<sub>用<sub>い<sub>と_{く_{一_{羽_{織_{袴_{と_も}}}}}}
 一 一<sub>つ<sub>一<sub>極<sub>棄<sub>行<sub>せ<sub>吊_{主_{の_{從_{者_{と_{て_送}}}}}}
 一 幕<sub>帝<sub>と<sub>す<sub>幕<sub>内_{梯_{係_{せ_{一_{外_よ}}}}}
 一 幕_{行_列}
 一 等_{級_{依_{て_{一_{ら_{矢_{引_{馬_{幸_{櫃_{う_{張_{き_{の_子}}}}}}}}}}}}}}</sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub></sub>

土俗考

- 一 幕
- 一 提灯
- 一 白杖
- 一 散米
- 一 榮木
- 一 銘籙
- 一 墓表
- 一 太刀
- 一 提灯

一 柩

一 葬主

一 吊

一 會葬之人群行

以上

- 一 葬所に到坑前小葭と敷て柩と安ん
- 一 葬主棺木と取て柩と一度拜む
- 一 葬主と四拍と
- 一 葬主坑と隙て米と二度敷と
- 一 柩と坑中より下して南向と安ん

此時屋形大峯帳と除て柩の上より圓く曲置
 たる繩と解ひの繩と取て坑の中へ柩と下は時
 々素燭と燈一筋の過うと柩より出たて
 柩の内空疎かへ密く突充て柩の蓋を覆下
 合目と漆喰とよく塗之却て清らかなせよ
 柩の柩かへ蓋を覆て釘付せよ或は柩と
 畧して柩のまう土中へ埋めあへばよ
 一 葬まむと椁ふら三度土
 ちとサ一取て坑の中へ三度敷き下し畢ら夫
 率とまうして四方より坑中へ柩と埋め

ちとよくして柩を掃除せよ

- 一 柩の直上より形をよと築て奥城也
- 一 奥城の上は墓表と建
- 一 墓表の前は宋本と建
- 一 幣物と机を置て奥城の前を修め
- 一 葬まむ奥城の前へ進て一度拜む
- 一 葬まむ告文と申す

其詞

今日 与利波 靈體^平此地 止坐 氏千代乃處 止
 動事无久 移給事无久 永世 尔鎮定坐 止 某姓名

等酸美敬比拜奉与申事乎平介久聞給信止畏

美畏美毛白須

一葬主二度拜心

一葬主手と二拍して退く

一會葬の人数各一度拜心

退去

大輦忙銘籙装束の類のあはるは葬具と焼捨
て事畢の後跡と掃除して各葬場と退く

一各解除

席より水清き川辺より禊ぎ申て各身と清き

川に流れ海邊の方より海に川より湯取の
法事と用て息手と流し口と漱き糸と禊ぎ

其詞

高天原尔神留坐須神漏岐神漏美乃命以互皇

御祖神伊弉那岐命筑紫日向乃橘乃小戸乃阿

波岐原尔御禊祓比給布特尔生笠苗枝戸乃大

神達諸乃狂事罪穢乎祓賜閑清米賜閑止申須

事乃由乎天都神國都神八百萬乃神等共尔天

乃斑馬乃耳振立互聞食止畏美畏美毛白須

一家より歸て靈位と拜心

一 靈位と幣物と供(國の外より葬と儀先家族の者共一室に拜す)

一 葬物と撤と

一 各遷第

以上

一 家と柩蓋りせし穢は混る人として表の間年の前より後律之のとして壇水米と忌と盛儀(本乃前より後と申て表の間より先家内又と井戸門台等より動して米本の枝と取て悉く後日先より其後の祠と前の葬場より移るると川)

出で解除は時同

一 靈位(と朝夕幣物と供て拜す)

先四度拜

次手と四拍

次二度拜

幣物と洗米音手と淨水等と供(花籠は籠^{たか}と供^{たか}と後部) 米本又^{たか}の^{たか}と^{たか}拜^{たか}と^{たか}供^{たか}と^{たか}。

一 忌の中と紙色の表後と悉く毎日暮し時^{たか}の^{たか}祭^{たか}と^{たか}供^{たか}と^{たか}。

一 忌の^{たか}と^{たか}酒肉は勿論^{たか}と^{たか}味の食物と止^{たか}先^{たか}礼^{たか}宮^{たか}。

一 惣一、万慎て外の事、關係ふられ相葬送の
 言り親族身葬の人の酒食等と出にきて禁
 禁と一、時死せる者獨身して喪侯の者
 かくして知人の方より葬事とてとて一
 一 酒食等の事とていふ一、先よ忌よ係
 一 人の喪慕の情深れぬ知人縁者の方より一
 忌ぬして酒を贈るといふ一、ゆゑ一、ゆゑ一、
 一 五日とて酒を贈る物と悉流棄家内
 一 一、初とて一、後法先よ
 一 一周の後と霊位を改造て霊舎と細一、

其霊位ち在生中專重せ一、乃、後、姓名
 大人之灵雨玉と常り初の霊位の如く改先
 作く表しと故の如く姓名之霊位と書て
 背くると生葬の事年月とて記一、並一、
 一 忌也之の霊舎をれ、新よ忌舎と造一、
 一 凡忌骨と生酒生魚干魚海のもの、川のもの
 一 山のもの、畑のもの、穀木の葉又と肉のものを
 一 心よ、かき修一、其葬物の多廿一人の号、彼
 一 又、貧富、或、示の、有、者、一、依一、忌、言、ハ、彼
 一 此の表るれ、神事、葬、後、一、預一、ハ、齋、戒

棺室として身と棺を酒肉等と食料とを置く
林女也

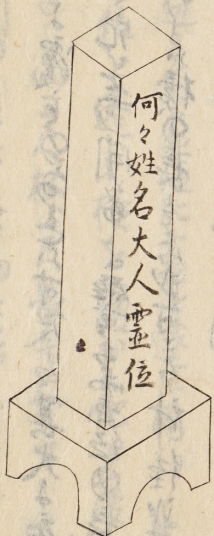
- 一 二月十日の家祭の吉方と撰きて祭りと定め
毎年あなご祭りと名づく一此所の地は
二月四日新年祭十日中の卯日新嘗祭
と行せしむ一故諸人をあきと後述して二月八日
己夜十下りの年の卯日以後は祭りと名づく一
奥城と名づく各郡の築きたるをせしめて一甲
換へては地租と建てる奥城とせしむる年
は行方なく

葬具

一 靈一位

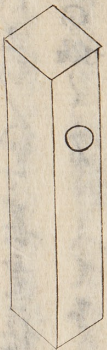
靈位の寸法は階級に依りて大かあり法は後祭
衣中以上の人を其靈位の長とせしむ寸徑
即寸柱の如く方として下は段とせしむ一杖を
柩を用ゆ

靈位の図



一 櫃

靈位の上は覆ものあり六寸尺其大は座と前の
方小から穴とツ開きは壁言と靈位の長き尺寸
径二寸あり櫃の長き尺寸計徑四寸或は計
一尺とあり櫃の板にて調よ



一 櫃 晒して櫃の覆もの或は紐にて一尺尺櫃の
大は座とあり櫃の長き尺寸計徑四寸
或はあり櫃の長き尺寸計徑四寸

汁の櫃

櫃の図



一 机三脚

内一脚は高八寸横八寸長三尺

死者の頭辺より蓋位に蓋と遷に用ゆ一脚は
活間(蓋位と遷)櫃と蓋位又櫃と蓋位
より用ゆ色は高三尺横一尺長三尺寸とあり
一脚は活間の蓋位は常物と供す時の案より色は

高巾大寸横を大寸長三寸化(下)い
八足と平儀とをぬく大巾房狭又ら翹子の
心よまらぬよ

八足机 諸君以下衣弁心

一 三方ニッ差渡ニ寸

一 花瓶ニッ 一 燭臺ニッ 一 四寸土巻乗

女信守して靈位と祀るの料ありかしあし
釋と混じりぬらし

一 単本二枝指淨水朱

女櫃家と發行したる詔と家内は極淨し

一 內衣

晒と用よめと裏付と用り寸尺は化者の長
唐と一裁縫のさよら帯の衣板とあり

一 襯衣 晒と帯のたわしのつよに纏る長ら

其人の係とちりせよ

一 布帯

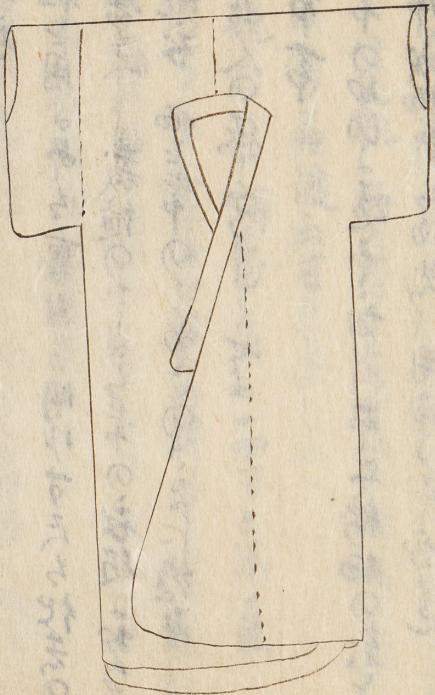
帯のゆいよ遠よか 布巾袂晒の表と用ゆ
飾織物類ちゆ丸く用ゆるよとかな

一 禪

具制帯のゆか

一 被衣

晒し調女まわりのついでに



一 衾袴

上は覆ふのと衾といふ下敷ふのと袴といふの二つ
三柄がくく長三尺七寸五分
衾と入す帯の幅其の都より五分

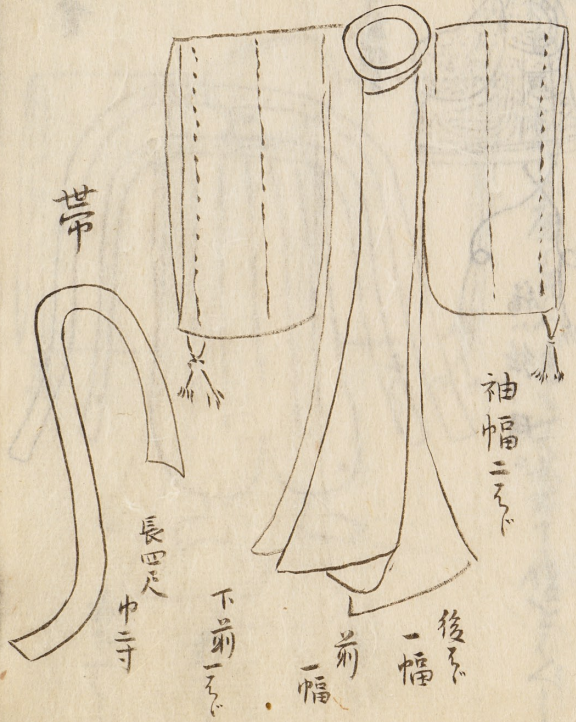
一 枕 布を用ひは内衾と入す経調は長三尺
寸五分あり

一 完裳

長三尺七寸の布此裳と造り用ひ其敷の裾の大
少後下一紙うて造り茶の都と入すより五分
葬送の付遺作の動ぬた丸の縫なり

一 櫛或は玉石より祖家以外何れかして兼て
 其方秘葬してよき事あり物あり紙よ
 白て柩の内納り女より縁鍼髪飾等の
 道具より納り柩内瓦石の類は姓若生卒の
 年号より字を彫りて納りありしりや
 一 沐浴櫛髪具之設
 湯帷子巾巾丹多柄杓盤等あり
 一 淨衣
 西へて納り葬り之者用の為かれ寸た其
 葬り之の者乃長く應へて納り一帯あり

形儀考とともあり



白丁



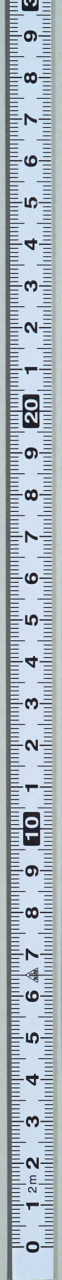
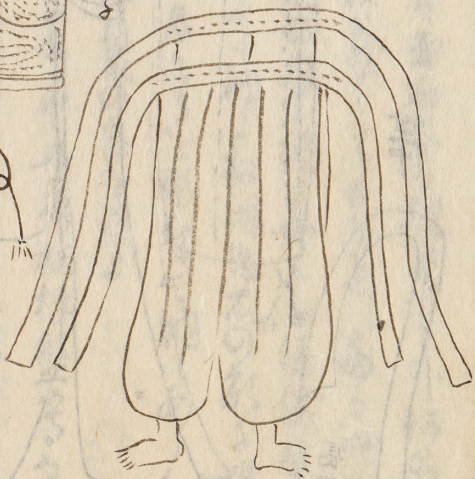
一 白丁 晒して 調ふ 是ハ 奴僕 着用 役下 取ハ 敷ト
 是時ノ 人 扱ハ 度ト 事ト 是ハ 昔 草履 履ト 事ト

風折烏帽子



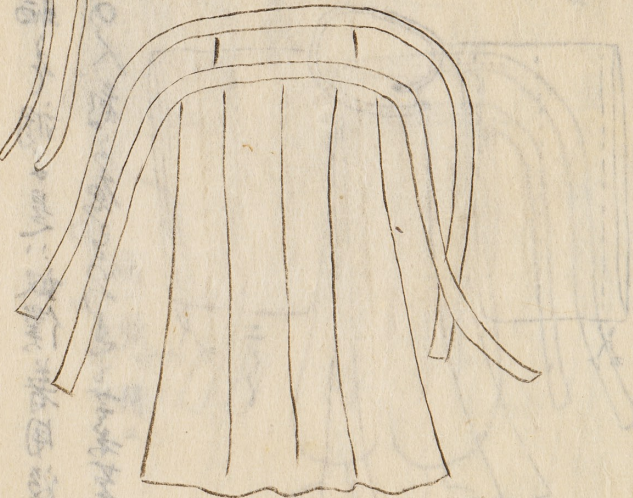
猪ハ 紙ヲ 用ユ

差貫



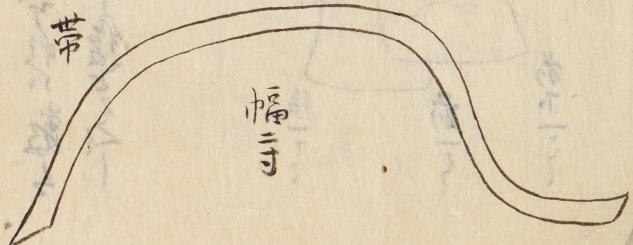
女子

烏帽子



帯

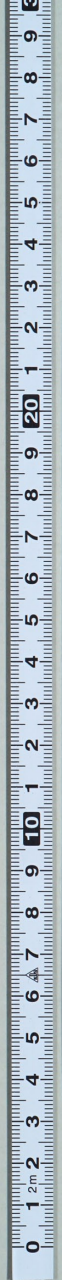
幅子



一 女子の衣箱の法は、婦女海徒より是より
 浴衣被衣と冠より先より其判前より出夏は白
 晒冬は白袴袴と冬より

一 櫃
 被と用の尺八仕者の方作の原にて遠近臥
 櫃は高き丈は尺五寸横丈は尺四寸長寸は尺五寸許
 少てより一層櫃は高き丈は尺三寸許寸は尺二寸許
 半儀もいれども被は薄かき尺八寸松又は楠の敷
 と用てより被は五寸の裡先てより糸く腐あつる
 どのから櫃の全目より内外より海よりと注下

一 女子の衣箱の法は、婦女海徒より是より
 浴衣被衣と冠より先より其判前より出夏は白
 晒冬は白袴袴と冬より



附楢ノハ松脂を斤油に合（後のり）と湯を入
て少く煮溶化し黒砂糖を斤若末に合
飴原に合と次煮し汁をいり度こし入る
用を手にとく火を極立下し後小飯の根を
切る付を揚て末と楢の合自小湯を斤
度糖を斤と用ゆるあり楢を用ゆるあり
煎りし松脂半斤油に合黒砂糖半斤若
末半斤に合煎りし右少くし楢あり松脂は
松自油を合黒砂糖半斤自若末を合煎
りし合しとより楢の希の方其姓名之

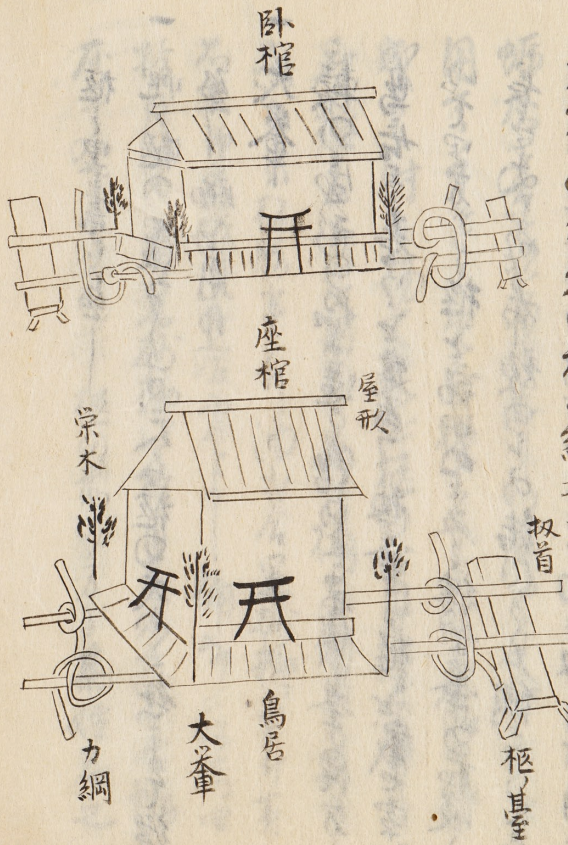
楢と黒書と金

一 肥楢の覆り寸尺は楢の大小に應じて絶
至し晒を用ゆ

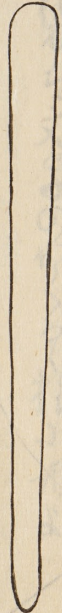
一大葦

轆の履形の根を造る楢の上を覆ひ葦の四方は
鳥居を造りて建あり一板葦は楢を載せ索と
以て四方より楢と動ぬより縛り葦の前後は
長き丈より布敷のもの結ひて力綱にして肩
よりして昇せし其昇せしより西の板首と肩より
のせは腰書と昇り如くして昇る

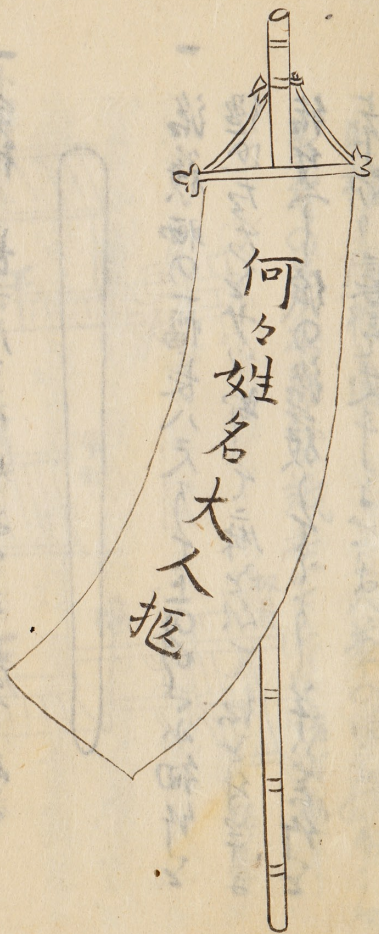
外棺と座棺と角とを大葎の口は角から
 葎舟の葎木の枝小紙垂と舟で結付あり



- 一 柩臺 二脚高二尺七寸長二尺五寸
- 一 提灯 白張のうしと用巾幘燭の多サと葎
- 一 許の遠近等に依て見針あり
- 一 白杖 長さ尺七寸廻り五寸半九本よせよ



一 浴簀晒の二幅長八尺りて上の角へ小細竹と
 縄込ちちとサシ切て麻と以て結と付半子
 結付一紙の浴簀晒と半子と
 上布切り長を丈半よせよ



- 一 太刀予傘の類を濡して袋と潤し紙をくま
り
- 一 竿木長四尺余の葉付枝と用麻紙の垂

と付よ

一 墓表

長五尺方四寸の柱に紙を張用四晒と袋
紙を張り長三尺方四寸を平くして
袋に文字のかくちを括小調よ

墓表

- 一 兼炬口途みち葬祈の用をよむ葬儀の赤
巻地の遠近を随て多しあり松口新と用意

あししは門燎或は墓所の庭燎とし用ひ

一 札一脚

高二尺四寸横一尺三寸長二尺一寸のしほは八足
少調より表の間や幣物と供ふの設帯や
葬祈より幣物と供ふに是を用ひ之は柩發
り給ふ葬祈(送る)

一 帚 常の竹の帚長四尺五寸五分



一 椰 椰の蓋子姓名又と生平の年月の記

記一蓋地と云ふは人々をわく深く掘り椰と云
たるの土を掘りて此の椰石を調みたる
俵を造りて椰或は松の脂ある所用て
心よめせし言は柩の高三尺方二尺三寸
あり椰の内法を深三尺七寸方二尺八寸斗
かせと漆喰八升せり又此棺の椰あり
漆喰一斗せり漆喰を石の層敷と地
のしありありして升目の多しとあり
と云ふ大凡と記の

一 幣物

生酒 昆布 腊 野菜 當季の飯 塩の類と供
冬 腊と干魚のおとろし

一 三方 五ツ

高八寸 横六寸 小調 四寸 土着 一束と用意せよ
是ら幣物と幣の被布也

一 葬所の幣物と酒 腊 塩 水とて

一 花瓶 二ツ

青竹 水で造る 下小 十文字 小鉢と付よ
柩の前に用いて 又 蓋 前 水 用ゆ

一 燭 五ツ

高八寸 小造て 下小 鉢と付よ
八寸 土着 一枚

敷米と入行列 水持 下 葬所 水 取て 供よ
除米と敷の用也

御一河方以下 衆中以上

葬祭式

三

